

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 12 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21320013

研究課題名（和文）中国道教における山岳信仰と宗教施設のネットワークに関する総合的調査と研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of Daoist Mountain Worship and its Related Network of Religious Facilities

研究代表者

土屋昌明（TSUCHIYA MASAOKI）

専修大学・経済学部・教授

研究者番号：80249268

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域の道教と洞天思想との関わり、各地の宗教施設のネットワークを考察した。また、その歴史的な経緯を考察した。十大洞天のうち、赤城山・括蒼山・委羽山・終南山・林屋山・句曲山・青城山・王屋山を実地調査し、それぞれの道観の現状、景観や洞窟などの地理的特徴について調査した。その成果の一部は『洞天福地研究』として発行した。以上により、洞天について具体的な叙述が可能となった。

研究成果の概要（英文）：As part of this project, we examined the relationship between mountain worship (belief in grottoe heavens) and local Daoism and surveyed the network of Daoist sites located on mountains. We also studied the historical development of this network. Of the ten main locations of grottoe heavens (dongtian), we surveyed seven: Chicheng, Kuocang, Weiyu, Zhongnan, Linwu, Juqu, Qingcheng, and Wangwu. We compiled data on the present state of their Daoist monasteries and their local geographic features such as the overall landscape and caves linked to belief in the grottoe heavens. Some of our findings have already been published in the academic journal *Dongtianfudi yanjiu*. Based on our research, the compilation of a historical narrative for the development of the concept of grottoe heavens has become possible.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2010年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
2011年度	3,300,000	990,000	4,290,000
年度			
年度			
総計	10,800,000	3,240,000	14,040,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：道教・洞天・道観・思想史・中国史・景観・ネットワーク・国際学术交流

1. 研究開始当初の背景

道教は、中国の哲学・思想・文化・社会を考えるにあたって極めて重要である。近年、文献の整理考証・道教哲学あるいは道教思想史・道教の儀礼調査・教団教派人物の研究については、学界で少なからぬ成果があがって

いる。しかし、（1）各地方の道教のローカル性、（2）それを結ぶネットワークのあり方、という問題が看過されている感がある。

（1）道教は広大な中国でおこわれたため、各地域における性格の相違がある。歴史的に見ても、例えば唐代の道士である張萬福は

『洞玄靈宝道士受三洞經誡法籙摺日曆』で、睿宗朝(710~712)に長安にいた道士の多くは四川出身で法術の技量が低いと批判している。反対に、唐末の『続仙伝』によれば、玄宗期(712~756)の前半に朝廷と関係して活躍した司馬承禎の、二人の高弟のうち一人である焦真静は、四川の天師道二十八治で修行し、嵩山に隠棲し、玄宗の妹と親しい関係であった。つまり、道士には出身地や経験による宗教的個性の相違があったことがわかる。こうした宗教的個性の背後に民間信仰を透視し、道教がそれを利用しているという見方すらある。また、各地域における道教の活動拠点とは特定の山岳とも密接に関わっている。そうした地域性と山岳信仰との関わりという視点もあまり問題にされてこなかった。

(2) そうした地域の特徴の拠点は、各地に存在する道観などの宗教施設だが、それらは相互に情報交換するネットワークを形成していた。それが文献で語られる場合、道教的な地理イメージの形をとる。『太平広記』には、嵩山の洞窟(「洞天」)に入った人が、四川の青城山から出てきた、という話がある。これは嵩山(河南省)と青城山(四川省)とが現実に宗教的なネットワークを持っていたことの反映であろう。このようなネットワークのあり方は、歴史的な変遷を経つつも、現在に至っている。

こうした点、洞天思想の研究は、具体的な地理的問題と宗教施設の持つ個性を検討する必要があるとともに、各地の宗教聖地がどのようなネットワークを持っていたかについても考慮すべき課題なのである。

2. 研究の目的

如上のような背景から、特定の道観に関係する道士がどのような教理を信奉・実践していたか、諸道観相互がどのようなネットワークを持っていたか、諸道観の位置と相互関係にはどのような宗教的な合理性があったのか、そうしたネットワークを維持していた地理的要件はなにか、そのようなネットワークがどう地理的にイメージされていたか、それは拠点となる山岳の地理的特徴(景観・洞窟・水脈など)といかなる関係にあるのか、といった問題を明らかにするのが本研究の目的となる。

こうして、道教史において、各地に存在する洞天福地のもつ宗教的な個性について、通時的・共時的な検討をおこない、その道教史および思想史との関連を明らかにする。

3. 研究の方法

山岳信仰を道教の観点から体系化したと考えられる「洞天思想」に基づくネットワークを考察する。「洞天」とは特定の山中洞窟

が地上と天界との通路となっており、しかもそれが、相互にネットワークを形成しているという信仰である。「十大洞天」「三十六小洞天」は、8世紀までに整理された。『雲笈七籤』巻27『天地宮府図』によれば、十大洞天は以下の通りである。

- ①第一洞天：王屋山(河南省済源市郊外)
- ②第二洞天：委羽山(浙江省台州市黄岩区)
- ③第三洞天：西城山(陝西省西安市郊外)
- ④第四洞天：西玄山(不詳)
- ⑤第五洞天：青城山(四川省成都市郊外)
- ⑥第六洞天：赤城山(浙江省天台県)
- ⑦第七洞天：羅浮山(広東省博羅県)
- ⑧第八洞天：句曲山(江蘇省句陽県)
- ⑨第九洞天：林屋山(湖南省岳陽市郊外)
- ⑩第十洞天：括蒼山(浙江省仙居県)。

こうした洞天福地に所在する道観およびそこに住持する道士について実地調査・インタビューをおこない、洞天福地との関わりおよび別の場所にある洞天福地との関わりを明らかにする。それとともに、関連する文献について、歴史的に検討し、各地の洞天福地に関わる歴史的な変遷を明らかにする。

4. 研究成果

研究成果の一部は『洞天福地研究』として発行している。その内容には以下のようなものがある。

洞天福地の研究についての諸問題点の考察。

洞天における山と洞穴の関連を、委羽山を例として検討した考察。

第6大洞天赤城山と第27小洞天金庭山洞、第10大洞天括蒼洞と第10福地丹霞洞、第19小洞天蓋竹山洞、第2洞天委羽山洞などの洞天福地の現状と道士の信仰および相互の宗教的な関連性に関する報告。

嵩山・華山・終南山・茅山・青城山・峨眉山・王屋山などの洞天の現状の報告。

天台山の済公伝説を検討した考察。

明初の道士である何道全の思想を検討した考察。

などである。

また、第一大洞天たる王屋山については、2回(予備調査をふくめると4回)の調査をおこない、王母洞・靈山洞という洞窟が王屋山の洞天のモデルであり、また第一大洞天の信仰の核心に存在するであろうことを見いだした。また、洞天信仰の核心的人物である魏華存が晩年に修行したとされる修身洞の存在を確認し、それが河南省の二仙廟の信仰として存続していることを見いだした。また、『真誥』の神降ろしがおこなわれたとされる第八大洞天である句曲山の許家の道観が伝わっていたとされる場所を同定するとともに、そこは三茅君山が前後して並ぶ景観にあって三茅君を象徴する山岳信仰の場である

ことを見いだした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 30 件)

1 二階堂善弘、妙見信仰と真武信仰における文化交渉、『東アジア文化交渉研究』(関西大学文化交渉学教育研究拠点 ICIS)、査読無、第 5 号、2012 年、11~22 頁。

2 二階堂善弘、關於民間寺廟祭孔の状況—以閩台地區為主、『東アジア文化交渉研究』(関西大学東アジア文化研究科)、査読無、別冊 8、2012 年、61~68 頁。

3 二階堂善弘、華光大帝の変容、『東アジア文化交渉研究』(関西大学東アジア文化研究科)、査読無、東アジア研究科開設記念号、2012 年、173~180 頁。

4 土屋昌明、洞天福地の研究について、『洞天福地研究』、査読無、第 1 号、2011 年、3~9 頁。

5 土屋昌明、第 6 大洞天赤城山と第 27 小洞天金庭山洞の現況、『洞天福地研究』、査読無、第 1 号、2011 年、31~43 頁。

6 土屋昌明、第 10 大洞天括蒼洞と第 10 福地丹霞洞の現況、『洞天福地研究』、査読無、第 1 号、2011 年、63~75 頁。

7 土屋昌明、第 19 小洞天蓋竹山洞の現況、『洞天福地研究』、査読無、第 1 号、2011 年、76~80 頁。

8 大形徹、洞天における山と洞穴—委羽山を例として、『洞天福地研究』、査読無、第 1 号、2011 年、10~30 頁。

9 大形徹、第 2 洞天委羽山洞探訪記、『洞天福地研究』、査読無、第 1 号、2011 年、10~30 頁。

10 横手裕、明初道士何道全的思想、『洞天福地研究』、査読無、第 1 号、2011 年、97~102 頁。

11 山下一夫、天台山の済公伝説、『洞天福地研究』、査読無、第 1 号、2011 年、44~62 頁。

12 二階堂善弘、シンガポール・台湾の閩粵系廟と祭神、『関西大学東西学術研究所創立六十周年記念論文集』(関西大学東西学術研究所)、査読無、東アジア研究科開設記念号、

2011 年、173~186 頁。

13 土屋昌明、唐代道教の文字観、専修大学人文科学研究所月報、査読無、第 249 号、2011 年、1~43 頁。

14 大形徹、雲気文と鹿の角、形の文化研究、査読有、第 6 号、2011 年、45~58 頁。

15 大形徹、生命力をもつ文様の伝播、論叢国語教育学、査読無、復刊第 2 号、2011 年、96~110 頁。

16 二階堂善弘、文昌帝君信仰と書院—台湾における文昌帝君廟を例に—、東アジア文化交渉研究(関西大学 ICIS) 査読無、第 4 号、2011 年、11~19 頁。

17 土屋昌明、道教美術研究の若干の近況について、東方宗教、査読無、第 115 号、2010 年、100~110 頁。

18 土屋昌明、道教美術における文字の問題、アジア遊学「道教美術の可能性」(勉誠出版)、査読無、第 133 号、2010 年、71~82 頁。

19 土屋昌明、朝鮮半島における道教美術、アジア遊学「道教美術の可能性」(勉誠出版)、査読無、第 133 号、2010 年、223~234 頁。

20 大形徹、古代オリエントと道教美術、アジア遊学「道教美術の可能性」(勉誠出版)、査読無、第 133 号、2010 年、235~242 頁。

21 大形徹、『莊子』逍遥遊篇冒頭の話と馬王堆帛画—魚・鳥・太陽・扶桑をめぐる—、郵政考古紀要、査読無、第 50 号、2010 年、33~50 頁。

22 鈴木健郎、「道教美術」とは何か、アジア遊学「道教美術の可能性」(勉誠出版)、査読無、第 133 号、2010 年、28~39 頁。

23 二階堂善弘、日本渡来の華人の神々、アジア遊学「道教美術の可能性」(勉誠出版)、査読無、第 133 号、2010 年、197~203 頁。

24 山下一夫、明清小説の版画に見える道教神、アジア遊学「道教美術の可能性」(勉誠出版)、査読無、第 133 号、2010 年、122~131 頁。

25 横手裕、道教の歴史、アジア遊学「道教美術の可能性」(勉誠出版)、査読無、第 133 号、2010 年、40~54 頁。

26 二階堂善弘、道家・道教・民間信仰と

理想社会（도가・도교・민간신앙과 이상사회
翻訳：張源哲）、南道文化研究、査読無、
第 17 輯、韓国順天大学校南道文化研究所、
2009 年、67～103 頁。

27 二階堂善弘、華光大帝信仰の変容－杭州
と福州・馬祖を例に－、アジア文化交流研究
（関西大学アジア文化交流研究センター
CSAC）、査読無、第 4 号、2009 年、369～375
頁。

28 二階堂善弘、長崎唐寺の媽祖堂と祭神に
ついて、東アジア文化交渉研究（関西大学文
化交渉学教育研究拠点 ICIS）、査読無、第 2
号、2009 年、99～108 頁。

29 山下一夫、『封神演義』通天教主考、田中
文雄・テリー＝クリーマン編『道教と共生思
想』、査読無、大河書房、2009 年、176～198
頁。

30 鈴木健郎、「洞天」の基礎的考察、田中
文雄・テリー＝クリーマン編『道教と共生思
想』、査読無、大河書房、2009 年、215～239 頁。

〔学会発表〕（計 17 件）

1 二階堂善弘、アジア宗教研究におけるア
ーカイブズの活用、関西大学アジア文化研究
センター（CSAC）第 1 回研究集会、2012 年 3
月 27 日、関西大学 CSAC。

2 山下一夫、濟公傳在日本、明清小説面面
觀學術座談會、2012 年 3 月 19 日、台湾・中
央研究院文哲研。

3 山下一夫、蠶花五聖與明清民間信仰、2012
年明清研究國際工作坊研討會〈明清鼎革變動
與文化詮釋〉、2012 年 3 月 16 日、台湾・国立
中央大学明清研究中心。

4 二階堂善弘、古典戯曲小説のデータ利用
について、中国古典小説研究会 2011 年度関
西例会、2012 年 2 月 11 日、京都キャンパス
プラザ龍谷大学サテライト教室。

5 大形徹、九州西部における隠れキリシタ
ン後裔の花文化、照葉樹林文化研究会、2011
年 12 月 3 日、大阪府立大学学術交流会館。

6 二階堂善弘、關於民間寺廟祭孔的狀況－
以閩台地區為主、ICIS 第 5 回国際シンポジ
ウム「東アジア文化交渉学の新しい展望」、2011
年 11 月 11 日、関西大学 ICIS。

7 二階堂善弘、日本の妙見信仰と中国の真
武信仰、東西学術研究所「東アジアにおける

規範と学芸研究班」2011 年度例会、2011 年
11 月 5 日、関西大学東西学術研究所。

8 二階堂善弘、海を越える伽藍神－日中五
山の伽藍神の比定－、東西学術研究所創立 60
周年記念国際シンポジウム、2011 年 10 月 22
日、関西大学 CSAC。

9 土屋昌明、La traduction dans le taoïsme
（道教における翻訳）、東大フォーラム・翻
訳と思想の地理学－中国・ヨーロッパ・日本、
2011 年 10 月 18 日、Collège de France Salle。

10 横手裕、宋元道教的内丹養生法、
International Conference on Song Daoism
2011、2011 年 9 月 23 日、香港中文大学。

11 大形徹、鹿角文様の肖形印－オリエント
の封泥と中国の封泥－、大阪府立大学人文学
会、2011 年 7 月 24 日、大阪府立大学学術交
流会館。

12 二階堂善弘、媽祖信仰發展與中國海神組
織化、The 7th International Daoist Studies
Conference、2011 年 6 月 26 日、中国湖南南
岳衡山。

13 大形徹、生命力をもつ文様の伝播－エ
ジプトのパルメット・中央アジアの鹿角文様
と中国の龍・雲気文との関係について、広島
大学国語文化教育学講座講演会、2010 年 12
月 18 日、広島大学。

14 二階堂善弘、道教・民間信仰の神々とそ
の日本への影響、2010 年度日本宗教史懇話会
サマーセミナー、2010 年 8 月 27 日、かんぼ
の宿岐阜羽島。

15 大形徹、雲気文と鹿の角、2010 年度形の
文化会、2010 年 5 月 22 日、大阪府立大学サ
テライト。

16 山下一夫、明清時期三清形象的轉變與發
展、媽祖與華人民間信仰國際研討會、2010 年
5 月 21 日、台湾・国立新港芸術高中。

17 二階堂善弘、真武在日本神道與佛教之變
容、Shinto-Buddho Reformation of the
Zhenwu deity in Japan, The Cult of Zhenwu
in Imperial and Modern China、2010 年 4 月
3 日、Rutgers University Brunswick, New
Jersey USA。

〔図書〕（計 3 件）

1 洞天福地研究編集委員会（土屋昌明ほか）、
好文出版、洞天福地研究 第 1 号、2011 年、

110 頁。

2 土屋昌明・鈴木健郎・斎藤龍一編、勉誠出版、道教美術の可能性、2010 年、251 頁。

3 二階堂善弘、明清期における武神と神仙の発展、関西大学東西学術研究所研究叢刊 29・関西大学出版部、2009 年、207 頁。

[その他]

ホームページ等

<http://www.isc.senshu-u.ac.jp/~the0561>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土屋昌明 (TSUCHIYA MASAOKI)

専修大学・経済学部・教授

研究者番号：80249268

(2) 研究分担者

鈴木健郎 (SUZUKI TAKEO)

専修大学・商学部・准教授

研究者番号：40439518

大形徹 (OHGATA TOHRU)

大阪府立大学・人間社会学部・教授

研究者番号：60152063

横手裕 (YOKOTE YUTAKA)

東京大学・人文社会系研究科・准教授

研究者番号：10240201

二階堂善弘 (NIKAIDO YOSHIHIRO)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：70292258

山下一夫 (YAMASHITA KAZUO)

慶應義塾大学・理工学部・准教授

研究者番号：20383383

(3) 連携研究者

なし